

主 題：私たちの偉大な神 3

聖書箇所：イザヤ書 41章8—20節

「私のたましいは神をほめたたえます。あなたは何と偉大なお方でしょう」、これがクリスチャンの心からの賛美です。私たちが神をほめたたえることは神が望んでおられることです。クリスチャンは神を正しく知ることによって神への確信がなお増してゆきます。

イザヤは自分が生きていた当時のイスラエルの民に、罪を悔い改めることを語りつづけますが、人々は耳を貸そうとしませんでした。そして、イザヤの召天後 150 年、バビロン捕囚にあったイスラエルの民にも語ったのです。罪を悔い改めて神に立ち返りなさいと。そして、イザヤは“あなたは神と特別な関係にあるのだ”と人々に思い起こさせようとします。これは当時の人々にも、捕囚にあった人々にも、そして今の私たちにも神が語っておられることです。捕囚の民は、イザヤのことばを読み、励ましと希望が与えられるのです。「神は必ず私たちを約束の地へと戻される」と。そして、このイザヤ書 41～66 章には慰めのメッセージが書かれています。

前回まで (9/29、10/13) この偉大な神がどのようなお方かを、特にイザヤ書 40 章から学びました。

イザヤは私たちの神がどんなにすばらしい神か、繰り返して、確信と希望をもって生きようと語ります。続いて、さらにこの偉大な神はどのようなお方でしょうか？イザヤ 41 章から見てゆきましょう。

1. 恵みの神 8-10 節

(1) 選びにおいて 8-9 節

まず、41:8 のはじめに「しかし」とありますが、これはその前 7 節のまことの神ではないもの、偽りの神に頼ろうとする人々に対して、「わたしは偽りの神とは違う」と強調するのです。偶像のもたらす愚かさともまことの神がもたらす真実を比較しています。

神はイスラエルの民を選ばれました。そして、彼らを養い世話をされます。彼らが忠実だから選んだのではなく、神が選ばれたから彼らは神に忠実であろうとするのです。また、神はアブラハムを選ばれました。ウルの地（今のイラク）からアブラハムを連れ出し導かれました。これらは神の一方的な選びです。なぜなら、神の目的があるからです。神のしもべとして、神のすばらしさを証するためです。しかし、民はバビロンへ捕囚となりました。神の訓練です。試練の中で民は罪に気づき、悔い改めてゆくのです。私たちは自分の力を過信すると罪に陥ります。神の助けがなければ何もできない、と気付くことです。自分たちの罪に気付いたイスラエルの民に神は言われます。「わたしはあなたを選んで、捨てなかった」と。ヘブル 13:5 にもこのように書かれています。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」と。申命記 31:6 「…あなたの神、主ご自身が、あなたとともに進まれるからだ。」。ヨシュア記 1:5 にも「…あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」と。恵みに富むこの神に私たちはなお忠実であろうとすること、それが私たちの責任です。

(2) ケアとご配慮 10 節

神が私たちの必要を与え、世話してくださるのです。私たちには特権と約束が与えられています。特権＝(1)「神が常にともにいてくださる」

だから、神は私たちに「恐れるな」と言われるのです。創世記 15:1 「アブラハムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。」、同じ 26:24 「わたしはあなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしがあなたとともにいる。」と、神はアブラハムに繰り返して言われます。これはまた、私たちにも神が言ってくださることです。「恐れる」とは、周りを見て自分に危害を与えるものがあるかどうかを見て恐れる、と言う意味です。今の私たちも不安だらけですが、心配することはないのです。なぜなら、全能なる神がともにいてくださるからです。「わたしがあなたとともにいる」を原語に忠実に訳すと、「あなたとともにいる、わたしが」となり「わたし」を強調しています。これが神の約束です。マタイ 28:20 にも「…見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」とあります。あなたとともにいるのは「このわたし」だと。

(2) 「わたしがあなたの神だから」

これは神と私との 1:1 の関係を示しています。神と個人的につながっているのです。「たじろぐな」とは「尻込みするな、ひるむな、勇敢でありなさい」というのです。

約束＝ (1) 力を与えてくれる。

「あなたを強め」とあります。民にイスラエルの未来に対する必要な力を与えるの言われます。また、神のみこころを行なってゆくための必要な力が与えられるのです。ゆえに、私たちは「できない」とは言えません。自分の力ではできないと追い込まれてはじめて、神に頼るのが私たちですが、今の状態でできるのだと神は言われます。私たちは「神の助けによってできる」が自分の信条となるようにしなければなりません。強めてくださるのは神だからです。

(2) 助けが与えられる。

「あなたを助け」は「あなたを確かに助け」と「確かに」ということばがついています。「助け」が確実である、確実に与えられる、と言うのです。

(3) 守りを与えてくださる。

「右の手」とは「神の力」です。義なる方が私を正しく扱ってくださるのです。しかし、不義な者には神の審判がくだります。私の弱さを知っておられる神が、義なる御力によって守ってくださるのです。

⇒これらの約束は真実な神によって保証があるのです。選ばれた者への特権と約束です。

2. 勝利の神 11-16 節

11-13 節には、神の助けによってイスラエルには敵に勝利を得ることが書かれています。神に逆らう者は「恥を見、はずかしめを受け」、「無いものようになって滅びる」のです。神の審判の前に、自分の愚かさ気付いて恥じ入る、そのむなしい生き方が明らかにされるのです。この 11, 12 節が真実であることを 13 節が示すのです。「神が助けてくださるのだから」、「わたしに勝るものは他にはない」と神は再び約束されるのです。必ず神の審判が下ります。

15, 16 節には比喩的な表現がされています。イスラエルの神の助けによる勝利を表わしているのです。どのような方法ででしょう？ペルシャ帝国は周りの国々を滅ぼすと預言されています。イザヤ 41:2 に「…ひとりの者を東から起こし、」とありますが、これはペルシャ王クロスのことです。44:28「わたしはクロスに向っては、…」、45:1「主は、油注がれた者クロスに、」と、クロスによってさばきが行なわれるというのです。そして、これは神の警告です。イザヤ 46:11 には「わたしは、東から猛禽を、遠い地から、わたしのはかりごとを行なう者を呼ぶ。わたしが語ると、すぐそれを行ない、わたしが計ると、すぐそれをする。」と、鷲や鷹のように、一瞬の内に征服するのだと、しかしこのクロスを用いるのはわたしなのだと神は言われます。「このクロス王より偉大なわたし」と。

14 節には「虫けらのヤコブ」とありますが、これは軽蔑ではなく、神の前に人間はいかに小さく弱いかを表現しているのです。ヨブ記 25:6 にも「ましてうじである人間、虫けらの人の子はなおさらである。」とあるとおりです。「虫けらのイスラエルの人々よ、わたしがあなたを助ける」と神は言われるのです。そして、彼らを「贖う」と言われます。贖うとは、代価によって奴隷から解放することです。罪の力から解放されるのです。43:14 には「あなたがたを贖われたイスラエルの聖なる方、」、44:6 にも「イスラエルの王である主、これを贖う方、」とあります。また、43:3「わたしが、あなたの神、主、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。」、43:11「わたし、このわたしが、主であって、わたしのほかに救い主はいない。」と、神は敵に対して、罪に対して勝利を与えてくださるのです。

3. 祝福の神 17-20 節

ここには砂漠が潤ってゆく様子が書かれています。杉やアカシヤは神の祝福を象徴しています。これは千年王国のこと、私たちはそこに招き入れられると言います。しかし、地上においても、私たちは神によってこの祝福を味わいながら歩むのです。

神は繰り返し言われます、「恐れるな」と。「わたしは、あなたのすべてをわかっている！あなたとともにいるのだから。心配しなくてもいい」と、天においてもこの地上においても守り導いてくださるのです。神に信頼して歩んでゆくとき、神が私を力づけてくださるから、私たちは主人であるこの神のすばらしさをあかししてゆけるのです。